

近年の国土交通省における トイレ関係の調査研究等

令和2年10月

総合政策局安心生活政策課

付添者のニーズ調査(平成30年度)

調査の概要

- 共生社会の実現に向けユニバーサルデザインの街づくりを進めるためには、誰もが自由に移動し活動できるよう、障壁を取り除くことが求められるが、単独での移動が困難な方に付き添う方(付添者)や、単独で移動できない子供を連れた保護者等のうちベビーカーを利用しない方等が感じている障壁については、ほとんど把握できていない。
- そこで、付添者等が公共交通機関を利用にあたって困っていることや、あればいいと思うサービスなどについてのニーズ調査を実施し、公共交通機関のユニバーサルデザイン化の推進に係る付添者視点での課題を把握する。

調査内容

1. 調査対象者

性別：男性、女性

年代：18歳以上

地域：全国

その他：直近3年以内に下記条件に1つ以上該当している方

- ①ベビーカーを必要とする乳児・幼児の付添者
- ②ベビーカーは不要だが、歩行に付添いが必要である幼児の付添者
- ③車椅子を常時必要とする方の付添者
- ④車椅子を必要としないが付添いが必要な方の付添者
- ⑤65歳以上の高齢者ご本人

2. 調査手法

インターネット調査

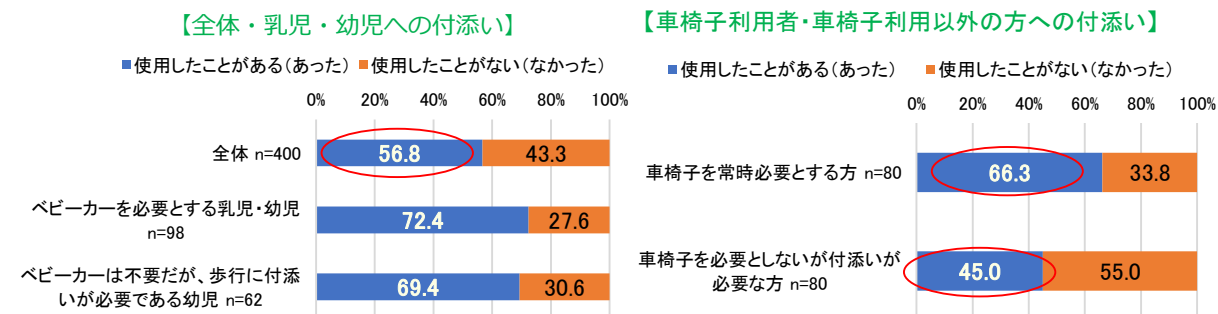
3. 調査時期

2019年2月27日(水)～3月4日(月)

調査結果(抜粋)

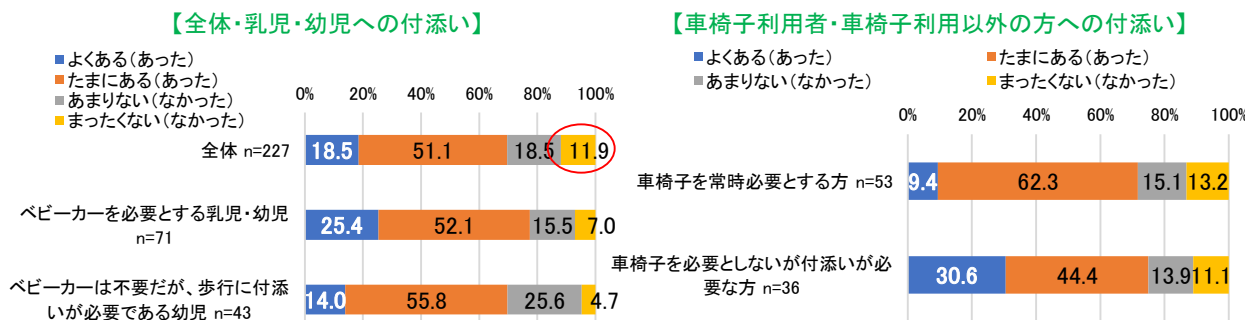
●多機能トイレの使用経験

- 全体結果として「使用したことがある」は56.8%、「使用したことがない」は43.3%。
- 同様に、「車椅子を常時必要とする方」では66.3%、「車椅子を必要としないが付添いが必要な方」は45.3%となる。



●多機能トイレ使用中のため待たされた経験

- 全体結果として、「まったく(使用中)がない/なかった」は、11.9%。



「心のバリアフリー」に関するアンケート調査(令和元年度)

調査の概要

- 平成30年に改正したバリアフリー法等に基づき、「心のバリアフリー」の実現のため、学校教育・企業等・地域における取組や国民の協力促進等が行われているが、一般国民の意識等については一定数のデータが存在しないのが現状である。
- このため、全国の一般国民を対象にしたアンケート調査を行い、一般国民の「心のバリアフリー」に関する認知度や現状等を把握する。

調査内容

1. 実施期間

令和元年12月9日（月）
～令和元年12月23日（月）

2. 調査方法

インターネットモニターアンケート

3. 対象者

1,066名
※令和元年度の国土交通省
のインターネットモニター

4. 回答者

908名

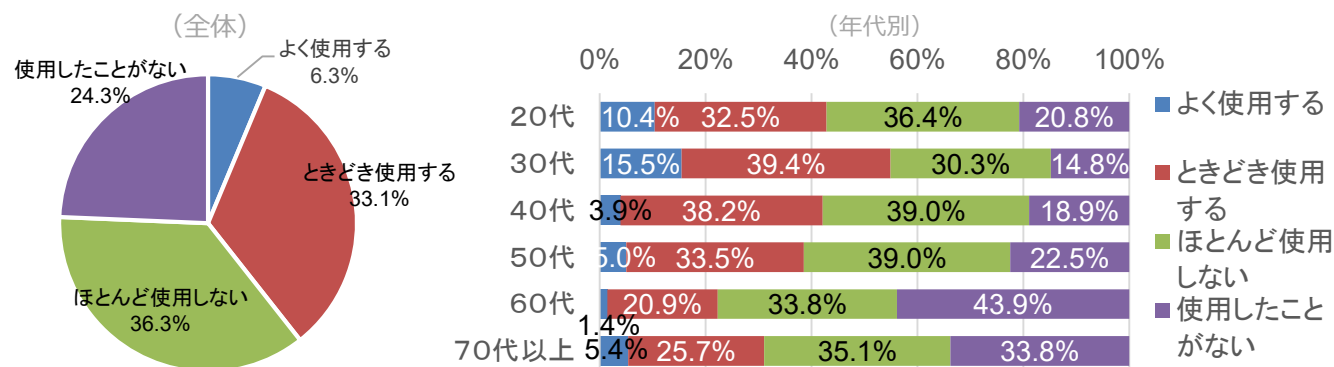
5. 回答率

85.2%

調査結果（抜粋）

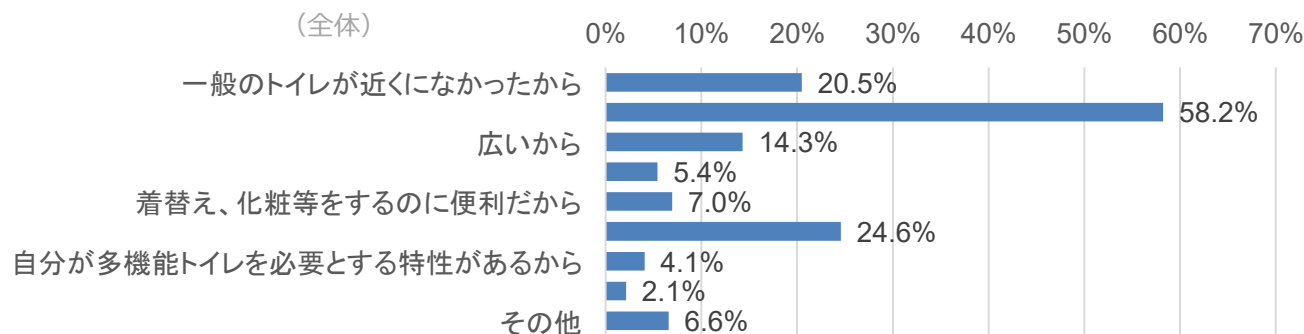
●多機能トイレの使用頻度

多機能トイレについて、「使用したことがない」、「ほとんど使用しない」と回答した方は全体の約60%を占めた。年代別では60代が約78%と最も高く、次いで70代以上が約69%となった。



●多機能トイレの使用理由

多機能トイレを使用した時の理由は、「一般のトイレが空いてなかったから」という回答が最も多かった。



トイレの利用状況等調査(令和元年度)

調査の概要

- 多機能トイレの利用集中を解消するため、ハード面では平成30年3月に交通バリアフリー基準が改正され、多機能トイレを前提とした規定から、トイレのバリアフリー機能を複数の便房へ分散配置できるようになり、ソフト面ではトイレの利用マナー啓発の取組を実施しているところ。
- さらに利用集中解消のための取組を推進するべく、トイレの整備状況の違いによる利用状況について調査・把握する。

調査内容

1. 調査対象施設

- ①東京都内の鉄軌道駅
- ②障害者の利用者数が多い鉄軌道駅
- ③10代～20代の利用者数が多い鉄軌道駅
- ④観光客の利用者数が多い鉄軌道駅
- ⑤トイレの整備状況が同程度で鉄軌道駅の利用者数が異なる条件で比較ができる鉄軌道駅
- ⑥鉄軌道駅の利用者数が同程度でトイレの整備状況が異なる条件で比較ができる鉄軌道駅

2. 調査内容

調査区分	調査内容	
1) 多機能トイレの調査 対象： 多機能トイレを利用した人+利用しようとした人	利用時間	・入・退室時間 ・利用時間
	利用者属性	・性別 ・年齢階層 ・身体的特徴等 ・同行者・持ち物
	トイレ到着後の行動	・待たずに利用、待って利用、一般トイレを利用、利用を断念
2) 一般トイレの調査 対象： トイレに入った人	利用者数	・男女別の利用者数、入室時間
	待ち行列発生状況	・男女別に待ち行列の発生時間・解消時間 ・それぞれの行列での最大の待ち人数を計測（トイレ外から観測可能な範囲）

調査結果（抜粋）

●トイレの整備状況による比較（鉄軌道駅の利用者数は同程度）

- 乗降客数は同程度であるA駅、B駅（それぞれ多機能トイレ1つ）、C駅（多機能トイレ1つ+機能分散）、D駅（多機能トイレ2つ）の多機能トイレの利用者数は、それぞれ43人、55人、47人、105人と、多機能トイレの数に比例してD駅がその他の2倍近くであった。

●鉄軌道駅の利用者数による比較（トイレの整備状況は同程度）

- トイレの整備状況は同程度であるA駅（乗降者数20.4万人）、B駅（同12.6万人）、E駅（同6.1万人）の多機能トイレの利用者数は、それぞれ55人、43人、17人と乗降者数の順で多くなっているが、利用待ち等は、それぞれ11人、11人、1人とA駅・B駅とE駅で差が出ている。

区分	対象施設			トイレ利用者数				多機能トイレの利用状況					
多機能 トイレ 整備 状況	駅名	トイレの 位置	乗降客数 (万人/日)	(上段-12時間、下段-ピーク時間)				利用され ている時間 (左-12時間、右-ピーク時間) ※カッコ内は割合(%)	利用待ち等の発生状況 (上段-時間(分)、下段-割合(%))				
				男性 用	女性 用	子供 用	多機 能		待た ずに 利用	待っ て 利用	一般トイ レを利用	利用を 断念	
1つ	A駅	改札外	12.6	1,260 141	447 53	-	43 7	289 (40.1)	43 (71.7)	40 (78.4)	3 (5.9)	8 (15.7)	0 (0.0)
	B駅	改札外	20.4	1,644 278	652 79	-	55 9	243 (33.8)	46 (76.7)	53 (82.8)	2 (3.1)	5 (7.8)	4 (6.3)
1つ ＋機能 分散	C駅	改札外	21.3	909 119	489 66	9 2	47 6	363 (50.4)	43 (71.7)	46 (53.5)	1 (1.2)	11 (12.8)	28 (32.6)
2つ	D駅	改札内	16.3	1,240 157	863 101	-	105 14	[両方利用] 172 (23.9)	[両方利用] 40 (66.7)	105 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1つ	E駅	改札内	6.1	418 45	126 20	-	17 3	118 (16.4)	43 (71.7)	17 (94.4)	0 (0.0)	1 (5.6)	0 (0.0)

●多機能トイレの利用者の属性等

- 肢体障害や視覚障害、子ども連れ等視覚的に属性がわかる人は各駅数名で、キャリーケースを持った人や高校生くらいの2名での着替え利用が見られた。